令和元年度　自己評価実践報告書

学校名　福島県立川俣高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

1　『学校経営・運営ビジョン』について

『生徒の夢を実現させます』のもと、高校３年間の学びを通して生きる力を育み、一人ひとりの進路希望実現を学校全体で支援を掲げ「今年度の課題」を設定した。これらを基に、各部、各学年、各科で具体策を検討し、校務運営委員会と職員会議での検討、協議を経て「学校経営・運営ビジョン」が策定された。

2　校内組織体制について

学校評価については校務運営委員会を中心に、校長のリーダーシップのもと、各部、各学年、各科との連携を図りながら、有機的な組織体制が取られた。

3　自己評価年間計画について

時期	生徒・保護者・地域	学　　校	学校評議員
４月 ～ ７月	○各教科での生徒に対する授業年間計画の説明 ○ＰＴＡ総会及び補会で学校経営・運営ビジョンの説明 ○学校経営･運営ビジョンのWebへの掲載	○校長による今年度の目標等の提示 ○校内組織づくり ○学校経営･運営ビジョンの策定 ○各部、各学年、各科での努力目標の検討 ○学校評議員会 学校経営・運営ビジョンに関する説明	○学校評議員の委嘱 ○学校評議員会 ・学校経営・運営ビジョンの説明 ・今年度の重点取り組み方針 ・生徒指導の説明 ・進路状況の説明
８月 ～ 12月	○学校へ行こう週間における保護者、地域住民による学校行事、授業見学 ○学校経営・運営ビジョン関するアンケートへの回答	○学校評議員会 ○学校へ行こう週間など 学校行事の実施、授業実践	○学校評議員会 ・かえで祭（運動会）による学校公開
１月 ～ ３月	○生徒の各教科や各委員会活動等での年度末反省 ○各教科や各委員会活動等での次年度の目標設定	○各部・各科での努力目標の年度末反省による成果と改善点の検討 ○学校経営・運営ビジョンに関するアンケート集計結果による成果と課題の検討及び結果のWeb掲載 ○自己評価実践報告書による学校経営･運営ビジョンの達成に関する反省 ○学校評議員会 アンケート集計結果等による説明 ○自己評価実践報告書及び評価書の県教委への報告	○学校評議員会 ・学校経営運営ビジョン実現に向けた年度末反省 ・努力目標に関する自己評価説明 ・アンケート集計結果説明 ・学校からの年度末反省を受けた評価書の提出 ・教職員不祥事根絶のための行動計画検証 ○卒業式への参加

Ⅱ　評価結果の概要

1　年度末評価（反省）の実施方法等について

（別紙平成３１年度（令和元年度）　努力目標年度末反省参照）

校長の指針のもとに作成された「学校経営・運営ビジョン」を受けて、年度初めに各部・各学年・各教科等で検討会を実施し立てられた努力目標について、年度末に各担当箇所で反省を行い評価する。その際、生徒との面談や、保護者を交えた三者面談、保護者会や、PTA の会合等での意見交換、川俣町で行われた川俣高校活性化協議会や川俣モノづくり体験塾での交流会、意見交換など、年間を通した様々な情報を分析し総合的に判断して、年度末評価を行っている。

評価方法は、段階評価と記述評価の併用である。なお、段階評価については、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、評価基準は次のとおりである。

［ Ａ：ほぼ達成した　　Ｂ：だいたい達成した　　Ｃ：あまり達成できなかった ］

2　アンケート及び回答数

（別紙学校経営・運営ビジョンに関するアンケート及び集計結果参照）

評　価	年度末評価のためのアンケート		
	対象数(人)	回答数(人)	割合(%)
教 職 員	28	28	100
生　　徒	113	113	100
保 護 者	113	101	89.4

・保護者回答数については、昨年比 1.7%増であった。

・評価項目については、前年度と比較分析するために変更は行っていない。

3　評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	そう思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない

・生徒、保護者ともに回答しやすいように、評価基準を設定した。

4　年度末評価のまとめ

（１）年度末評価実施の目的、意図

学校の教育活動全般に対して、教員・生徒・保護者の視点を交えて、アンケート等を活用して評価を行うことは、今年度の達成状況を把握することに繋がる。

また、問題点や課題を明確にすることは、次年度の各部・各学年・各教科等の目標策定や「学校経営・運営ビジョン」策定の際、有効に役立ち、今後の学校運営の改善に生かすことができる。

（２）年度末評価結果の分析、及び結果概況

学校経営・運営ビジョンをもとに設定した、各部・各学年・各教科の年度末反省をみると、目標は概ね達成できている。また、学校経営・運営ビジョンに対するアンケート集計結果をみても、「そう思う」「やや思う」が約９割を占めてる。これは、教職員の学校運営へ高い参画意識持ち、教育活動に取り組んだ成果と言える。

（３）重点努力事項に対する達成状況等

①「確かな学力を育みます」

基礎学力の定着と学力の向上を図ることを目標に、分割授業やＴ・Ｔを実施し、個に応じたきめ細やかな指導を行った。また、家庭学習への取り組みを指導し、学習習慣の確立をはかった。その結果、授業への生徒、教員の意識の向上がみられた。家庭学習の定着については、昨年度よりも平均３％上昇し約８０％と改善が図られたが、評価 C、D となっている割合も平均２０%になっていることから今後も継続した指導が必要である。

②「進路実現を支援します」

キャリア教育の充実、就職先との連携の強化、大学進学の支援に取り組んだ。進路講演会の実施や企業訪問、企業説明会などによって、職業観や勤労観の育成を図れた。また、課外授業や個別指導を進路指導部や学年担当者が主体となって組織的に行った。その結果、１２月末までに３年生全員が進路希望先に内定を得ることができた。また、公務員受験者においては、公務員対策講座を継続的に実施し２名の合格者を出すことが出来た。

③「豊かな心を育みます」

集団に適応する生活態度を身に付けさせるために、定期的なあいさつ運動や登校指導、頭髪指導、服装指導を行い、基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。また、健康と安全教育の徹底のために、教育相談の充実（スクールカウンセラーとの連携）や健康教育、交通安全教育、スマホ安全教育などに取り組んだ。その結果、生徒の大きな問題行動や事故、ケガはなかったが、スマートフォンの使用に関して指導を行う事案が発生した。使用方法や情報モラルの指導を継続しながら再発防止に努めたい。

④「地域との連携を図ります」

ホームページや川俣町広報誌による、学校行事の紹介や地元新聞の取材に応じるなど、学校の情報発信を積極的に行った。また、ＪＲＣや家庭クラブ、音楽部を中心としたボランティア活動（幼稚園訪問、川俣町運動会、老人ホーム納涼祭等など）や地域の行事（小島地区敬老会・芸能祭・コスキンなど）への参加等、地域との連携を深める活動を積極的に行った。

（４）分析に基づく改善の方向

家庭学習の定着が平均２割不十分であるとアンケートに回答している。家庭学習の定着を図るために家庭課題等を実施しているが習慣化していないことを踏まえ、今後も継続的に行っていきたい。また、地域との連携では、川俣町広報誌「かわまた」と協力しながら、学校行事、部活動等の紹介、資格取得の実績などを毎月町民に発信した。さらに、進路実現１００％を今年度も達成している実績を継続するためにも、さらにキャリア教育の充実を図っていきたい。次年度は、インターンシップを導入予定である。

アンケート結果は概ね学校経営・運営ビジョンをもとに設定した目標は達成できている。生徒、保護者、地域に必要とされる学校であるためにも、次年度はコミュニティースクールの実現に向け、地域との連携協働を進めていきたい。

Ⅲ 広報の概要

１　目的や意図

「学校経営・運営ビジョン」を生徒や保護者に配付して広報に努め、日頃の学校での取り組みについて理解を得るようにする。さらに、努力目標の反省などをまとめ、学校評議員等に意見を聞くなどして、学校の取り組みの改善に努める。また、学校からの様々な情報発信をとおして、保護者や地域にさらに学校に関心を持ってもらえるように努める。

２　実施計画及び実施状況

ＰＴＡ役員会等においての説明、ホームページにおいて、学校評価に関する事柄を掲載していく。

３　配布対象、配布時期、配布方法等

・配布対象は、生徒や保護者、学校評議員
・配布時期「学校経営・運営ビジョン」は年度当初、アンケート集計結果は年度末
・配布方法は、紙媒体による配布と Web 利用

４　実施してみての反省点

ホームページの他に、川俣町広報誌「かわまた」を使い、積極的に学校の取り組

みなどを掲載した。広報誌による取り組みは、４年目となり、より多くの世代の方々に見て頂けるようになった。今後も、川俣町と連携しながら広報活動のより充実を図り、さらなる情報発信に努めたい。

Ⅳ　次年度に向けて

１　評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

学校経営・運営ビジョンをもとに設定した目標は概ね達成できた。

自己評価の実践により課題等が明確になった。次年度に生かして行きたい。

２　自己評価全体の次年度の取組みについて

今年度と同様に取り組んで行く。

３　次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

・本校生徒の実態と多様な進路希望の実現を図るために、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導が求められる。計画的なキャリア教育を行い、勤労観や職業観を育成するためインターンシップを導入するとともに、毎日の授業の充実や家庭学習の定着を図り、生徒の基礎学力の向上に取り組んでいく必要がある。特に、家庭学習の定着は経営・運営ビジョンのアンケート結果から今後も改善が求められる。

・健康と安全教育の徹底のために、教育相談の充実や健康教育、交通安全教育に取り組む。基本的な生活習慣、生活態度の定着を継続して取り組んで行く。

・学校の情報発信の工夫に努め、ボランティア活動や地域の行事参加等、地域との連携を次年度も継続していく。

・次年度はコミュニティースクールの準備年度でもあることから、生徒、保護者、地域の方々に情報を発信しながら、基盤づくりを行う。

４　終わりに

自己評価については、学校評議員の方々から協力を得ながら、生徒や保護者の評価を取り入れ、実施することにより、「学校経営・運営ビジョン」の検証が多面的に行えた。この結果をもとに来年度の「学校経営・運営ビジョン」の策定を行い、全職員が協働して学校づくりを進めて行きたい。